

新たな常民研共同研究にむけて

——共同研究「海域・海村の景観史に関する
総合的研究」の概要——

安室 知

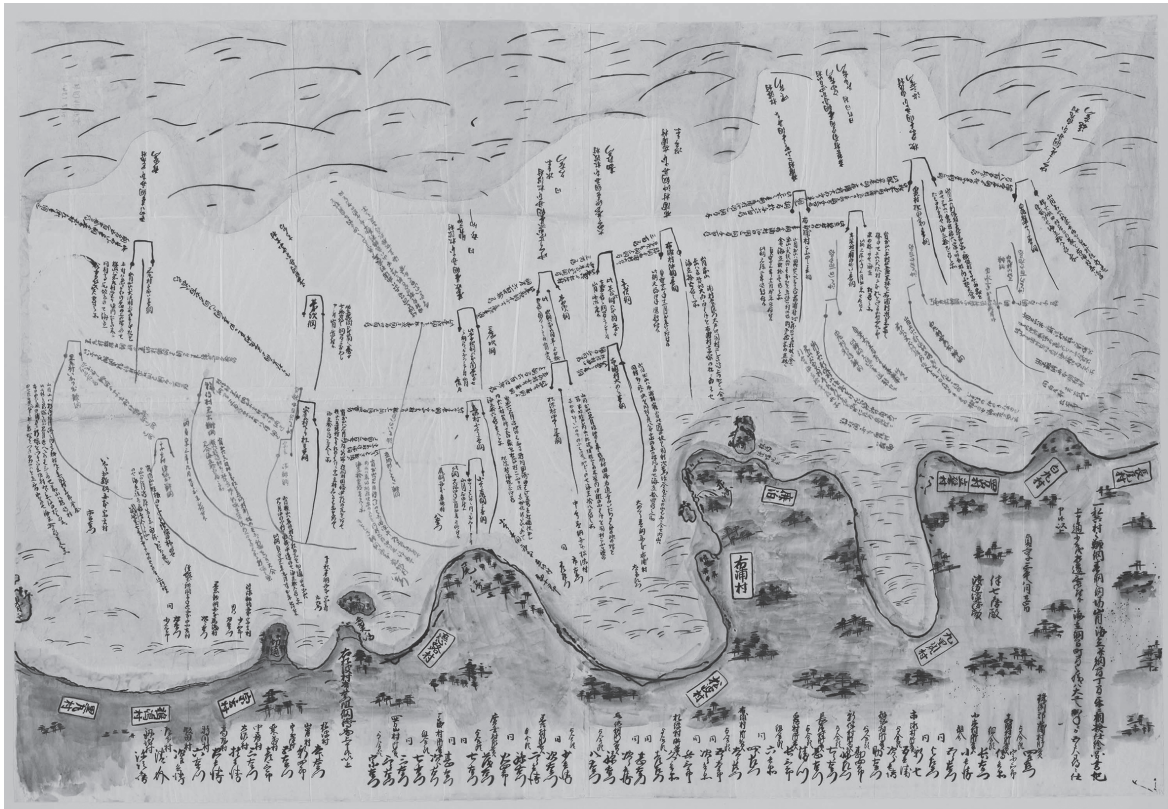


図1 漁場図「能登半島(仮)」日本常民文化研究所蔵

日本常民文化研究所では、その設立と活動の理念に基づいて、特定の研究課題を設定し、かつ所員・職員が全体として主体的に取り組むべき共同研究を組織してきた。そのひとつである常民研共同研究「瀬戸内海の歴史民俗」が2014年度に終了するが、それに代わる共同研究の策定を1年間かけておこなった。その結果、下記の共同研究を2015年度より発足することとなった。以下、その計画概要を示す。

1. 共同研究テーマ

「海域・海村の景観史に関する総合的研究——「漁場図」に注目して——」

* 通称：漁場図研究

2. 共同研究期間

2015年度～2018年度 4年間（研究期間3年、成果物刊行1年）

3. 共同研究経費

300万円（常民研経常予算）／年（2015年）

* 2015年以降、研究メンバーを拡大するため外部資金を申請する可能性がある。

4. 研究の目的と課題

海域海村は、水産物だけでなくさまざまな資源を生み出す空間であるとともに、その利用に当たっては人・物・情報の行き来を促す場となり、またそうした生活の営みを通して社会知や民俗知が膨大に集積される空間となっている。反面、負の記憶として、海域の利用をめぐるのは、個人や村のレベルから国際的な問題までさまざまな対立や紛争を生んできたし、また海という大自然とたえず対峙する海村では大きな災害や事故が歴史的に繰り返されてきた。そうした海域海村の歴史文化について、絵図として残された景観を手がかりに、常民研の人的資源を活用し学際的に研究することが本共同研究の主な目的となる。

具体的に研究対象とするのは、常民研が所蔵する「漁場図」である。本共同研究を通して、海域海村の歴史文化研究において図像解析を出発点とした新たな方法論の開拓を目指す。さらに、これまで死蔵されてきた膨大な「漁場図」を研究成果の一部としてデジタル化・図録化を進め、研究資源として広く社会に公開することも、本共同研究の重要な目的となる。

常民研はその発足の早い段階から漁業制度資料等による海域・海民史の研究に取り組み、能登半島や二神島といった地域で多くの研究蓄積をなしてきた。また近年は、国際常民文化研究機構のもと「海域・海民史の総合的研究」として3つの共同研究がおこなわれた。本共同研究はそうした常民研の研究蓄積を継承し発展させるものとして位置づけられる。

〈想定される具体的な研究課題〉

[海]

1. 漁場の利用技術（漁具・漁法）、2. 漁場利用の民俗知（山当てや観天望気）、3. 漁場利用の社会知（所有・権利関係・コモンズなど）、4. 漁業資源の管理と保護（魚礁・魚附林など）、5. 漁場利用をめぐる紛争、6. 港湾としての海域（舟運など）、7. 船（造船技術や操船技術など）、8. 海を介した技術伝播（大工や家船など）、9. 海域環境の多様性とエコトーン（磯・根・浜、汽水域・潮間帯・潟など）、10. 漁場をめぐる現代的課題（港湾化・埋め立て、防災など）

[村]

1. 海村の構造（町並・村落立地・背後の山など）、2. 海村の土地利用（田畑、森林、船小屋）、3. 海浜の信仰（日和山・漂着神仏・怪異など）、4. 海民の生業戦略（海民的・農民的、「漁農民」）

[図]

1. 「漁場図」の書誌的情報（法量、絵師、作図技法、成立経緯など）、2. 文字資料（筆写稿本）との対照、3. 「漁場図」（原図）の現況、4. 漁場の実際と「漁場図」、5. 災害と「漁場図」（東日本大震災）

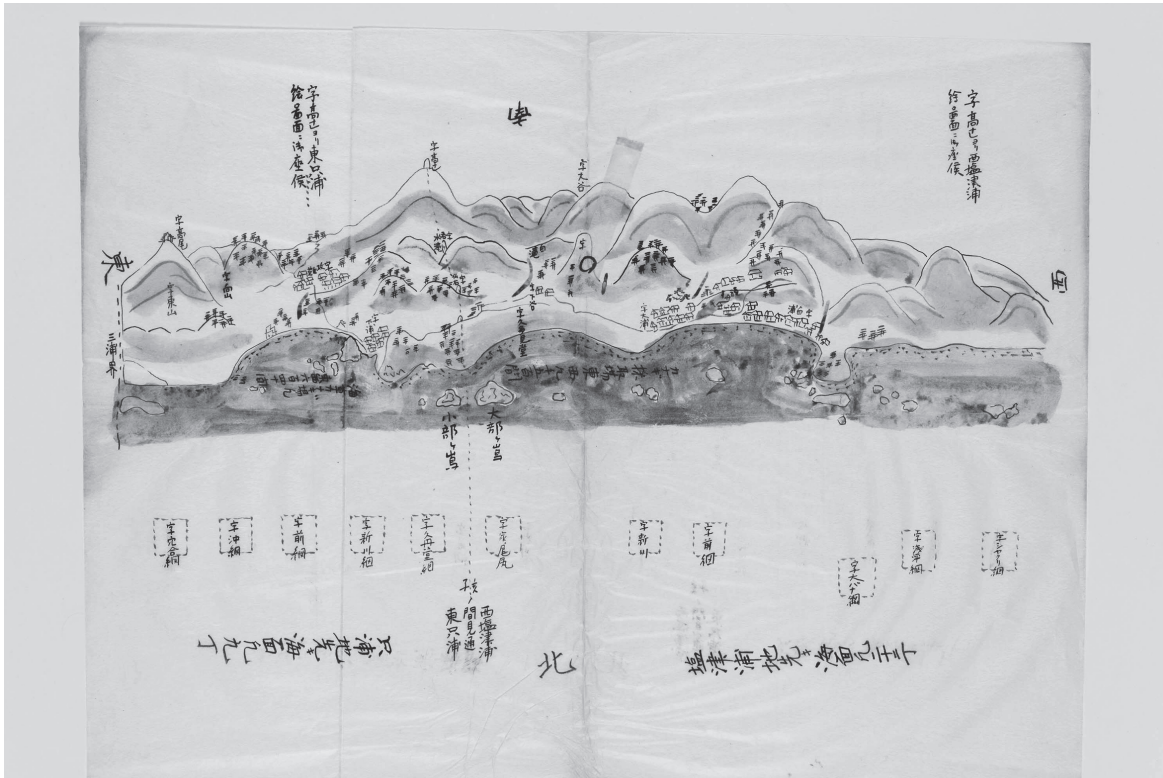


図2 漁場図「島根半島(仮)」日本常民文化研究所蔵

5. 研究の進め方

[研究会]

定期的(3・4か月ごと)に研究会を開催し、研究の進捗状況を報告する。また、必要に応じて、学外から先端的な研究者をゲストスピーカーとして招く。具体的には、研究会は4、7、10、1月の第3水曜日17時30分からを設定する。ただし、常民研の研究会等と重なる場合には他日に移動する。

[共同調査]

大島漁協文庫(仮称)が開設される気仙沼大島に共通の調査地を設定し、年に1度程度の共同調査をおこなう。

[個人調査]

おもに漁場図が残される地域を選定し、共同研究メンバーが個別に調査をおこなう。1人が年1回程度を想定。

[研究資源化]

日本常民文化研究所蔵漁場図(原図および筆写稿本綴じ込み分を含む)のデジタル化と書誌データの集積、およびその整理と解析

6. 研究計画

○2015年度

[通常活動]

まず、漁場図(原図と筆写稿本綴じ込み分)のデジタル化と詳細目録の作製をおこなう。また、それと並行して、現地に赴いてのフィールドワークをおこなう。各自の問題設定に応じた個人調査、

および気仙沼大島において共同調査を実施する（ただし文庫完成までは文書等は実見できないため、今後の共同調査の方針等を討論する）。以上の成果を、研究会で発表し討論する。

[特別活動]

- ①常民文化研究講座（テーマ「漁場図を読む」）2015年12月5日（土） 神奈川大学
- ②東アジア島嶼海洋文化フォーラム（共催事業） 2015年11月11日（水）-15日（日） 木浦大学（韓国）

○2016・2017年度

[通常活動]

引き続き、2015年度に策定した問題意識のもと、個別調査をおこなうとともに、気仙沼大島において共同調査を進める。

[特別活動]

未定

○2018年度

[通常活動]

研究成果の刊行および公開をはかる。

[特別活動]

未定

7. 研究成果

- ①共同研究報告書（論文集：個別論文編／気仙沼大島編）
- ② 同 （目録）
- ③ 同 （図録）：印刷物およびデジタル発信
- ④その他、国際研究集会の報告書や『歴史と民俗』特集号など

8. 共同研究メンバー

[所員]

- ・コアメンバー：調査研究の推進、研究会・国際研究集会等の企画・実施、研究成果の発信
- ・メンバー：研究会・国際研究集会等への参加

[職員]

- ・図録・目録の編集とそのための書誌的調査研究
- ・漁場図（原図）の現況調査

[客員研究員]

- ・研究目的に応じ適任者に委嘱（任期：2015.4.1-2018.3.31）予定者2名
- * 今後、外部資金を受けることになれば拡充

[RA]

- ・必要に応じて設定するが、他の学内研究組織や大学本部との調整が必要
- * 今後、外部資金を受けることになれば、それにより設定